

よさのうみ福祉会 広報誌

きょうと福祉人材
育成認証制度



2019年
5月1日
No.109

福祉よさのうみ

〈発行〉社会福祉法人 よさのうみ福祉会 〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6 TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を! URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>



新グループホームに 思いを寄せて

ホームすみれ 管理者 松井 沢美

新しいホームを待ちわびていた仲間たちの嬉しい顔と顔。昨年の夏から今年の3月にかけて建設が行われ、日々出来上がってくるのを毎日眺め楽しみにしていました。ホームの名前は花の名前に統一し、仲間の希望から1階を「あいりす」2階を「こすもす」と名付けました。

入居される方は4月13日の内覧会で、初めて自分の部屋を見て、新しい住まいでの生活が始まることを実感されていました。

ホームは、玄関を入るところから木のぬくもりのある暖かい雰囲気包まれ、「公募型木のまちづくり推進事業」を活用した木造の良さをふんだんに取り入れた仕上がりになっています。

4月19日の竣工式では、京都府丹後保健所次長、宮津市副市長のご臨席をたまわり、丁寧な祝辞をいただきました。

また、入居する利用者や家族、関係者の皆さんも多数出席されました。

入居者代表からは、新しい暮らしのスタートにかける思いと自分らしい暮らし方を皆さんに伝えていただきました。

長年の願いであった整った設備、心地よい環境の中での新しい生活が始まります。

グループホーム建設にあたりまして、多くの皆様のご協力、ご支援をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。

第5回 生活訓練事業「きらり」実践報告会

「ゆつぽう」自分と向き合う時間を

障害児(者)多機能型生活支援センターろむ

支援員 糸井公美

3月16日、大宮アグリセンターで第5回実践報告会を行いました。当日は、ご家族、行政、支援学校の先生方、福祉事業所職員の方など約50名の参加がありました。

「きらり」基調報告より

青年期の「学びの場」について理解が深められる時間に

現在、障害のない人は高校卒業後、約8割が進学しているのに対し、障害のある人は、支援学校卒業後、すぐに「働く」という選択をする生徒が多いのが現状です。

どんな障害があっても、「もっと学びたい！将来についてもっとゆつぽう考えたい！いろいろな体験や経験ができる場所がほしい！」という当事者・親・関係者の願いが集まり2011年に立ち上げたのが、「きらり」です。きらりは、基本2年の有期限事業。その貴重な時間を楽しく実りのあるものにするために、様々な経験を重ねる中で自分と向き合い、自信を育み、「自分で表現（発信すること）」「自分で考え行動すること」を大切に進めています。

講演

「生きる力をなかまとともにゆつぽう歩こう働く大人への道」

いずみ野福祉会 シュレオーテ

施設長 清時忠吉氏



今年度は、大阪で福祉型専攻科の実践に取り組んでおられる「シュレオーテ」施設長をお招きし、重度障害者を対象とした訓練事業の実践例がない中、試行錯誤しながら実践をすすめられていること、4年間の中で成人式を終え「働く」という意識がはじめてから「アルバイト」の体験をすること、「進路」という言葉の代わりに「将来ミートイング」という言葉で自分の未来を考えること、職員が大切にしている姿勢についてお話しいただきました。

例のない専攻科の実践について

の講演は聞く人を魅了。これからの「きらり」の取り組みにも取り入れたい内容をたくさん聴かせていただきました。

6人の仲間の報告

緊張したけど、がんばった！

「名刺を作ろうー得意なイラストをいれよう」

「進路に向けてーマールトに実習に行きました」

「3年間のふりかえりー実習を通して、進路を決める」

「豊岡一日外出ー世界に元氣にとび出そう」

「夢に向かってーぼくががんばったこと・これからがんばること」

「生活訓練『きらり』の学びからー働くステージへ」

♪まつり花笠 披露



パソコンのマウスを使い細部までこだわったイラストで、名刺を作ったAさん。トップバッターで緊張！と思いきや、原稿をすらすら読み、「Aです。よろしくお願いしま

す。」と会場の方に名刺を配りました。お母さんの前では「ありがと」と感謝の言葉が添えられ会場は温かい雰囲気になりました。翌日の新聞にも載り、「やったー」と笑顔でピース。

進路に向けて、実習を行ったBさん。この1年、楽しいことも辛いことも経験して、今、実践報告会の舞台に立てていることを自分でほめることができました。1人1人が自分と向き合って考えた1年の集大成ともいえる実践報告会。大勢の前でパワーポイントを使って発表する経験は自信につながったことと思います。最後にみんなで踊ったまつり花笠♪お揃いのシャツを着て、力強く花笠を振る姿は、自信満々！清々しい表情をしていたのが印象的でした。

おわりに

『きらり』に來ると、どんなところに就職できますか？どんな力がつきますか？という質問を受けることがあります。「きらり」で大切にしていることは、確実に何かの技術をつけることではなく、仲間と共に体験を通して、柔軟な心を大きくしていく！そして何よりも仲間自身が主人公であることを大切に実践しています。

ぜひ、みなさんもいっしょに、実りある青年期を「きらり」ですごしてみませんか。

食品づくりにかかわる 利用者の衛生学習会

野田川共同作業所
管理者 杉本 実信

去る2月15日(金)、13時から与謝野町中央公民館大会議室において、法人専門部会「日中実践向上部会」として法人内9ヶ所の食品づくりにかかわる利用者さんを対象に、衛生管理にかかわる学習会を開催しました。

参加者は予想を大きく上回り利用者、職員、関係者を合わせ90名を超える沢山の参加があり、会場は一杯で大変狭い環境での学習会になりました。

講師は、丹後保健所環境衛生室衛生担当技師 松岡様をお招きし、手洗いに関して、手に液体を付け手を実際に洗い、その後ブルーライトで



丹後保健所 松岡氏

どこがきれいに洗えてないかを教えていただき、全体の手洗い講義の中できれいに洗うための洗い方や、必要な注意点などわかりやすく説明を受けました。



スライドで学習しました

また衛生管理について異物混入や食中毒などを出さないために、まずは自分の健康管理、作業場に入る前の点検、作業場には必要ない物は持ち込まないなど、利用者の方にわかりやすい内容で話を進めていただきました。

後日提出していただいたアンケートの中には、「お出かけだと思っていたのに！」と参加してびっくりされていた方もおられました。「手洗いの勉強になった」「爪もちゃんと切らないと」「手をちゃんと洗ったのに光を当てると手に白い物がついていた」など、改めて手洗いの大切さを感じたり、安心・安全な食品を作る上で環境や衛生管

理の必要性を感じてくれた学習会になったのではないかと思います。今後、食品づくりに関わるなかで大いに役立ててほしいと思います。

衛生学習会フォロー アップ学習を行いました

みねやま作業所
支援員 岡田 亜希子

お菓子班・おかき班の仲間と職員で、「利用者のための衛生学習研修」に参加しました。

参加した仲間からは「今までちゃんと洗えてなかったわ」「これから手洗い頑張らないとね」と衛生に対する意識が向上してきました。

これまでから仲間の衛生意識について課題と感じていたので「これはチャンス！」と、手洗いの手順をイラストでわかり易く掲示して、翌日一人一人の手洗いを再度確認してみました。すると・・・、部分的にしか洗えていなかったり、アルコールの量が少なかったり。これは再度学びの場が必要と感じ保健所からDVDをお借りし、水曜日午後のフリースタイムを利用して手洗い学習を行いました。19名の仲間一人一人



イラストを熱心に見ながら手洗いの復習中

イラストを見ながら職員も一緒に洗い(手がふやけましたが...)、正しい手洗い方法をマスターしてもらいました。

一度だけでなく今後も定期的に学習の機会を設けて、より一層の清潔保持に努めていきたいと思っています。



きょうとわん利用者部会の活動について

ヘルパーステーション 結
管理者 荒川 俊宏

みやび作業所の松原宏和さん
(現在、利用者部会 副部長)
にお尋ねしました。

2、3ヶ月に一度、東京で会議があります。

今回の国会請願署名活動として北陸と近畿地区の支部に電話を掛け一人でも多くの仲間の生の声を集め国会議員に届けます。

利用者支部代表者会議では、それぞれの支部の活動内容の交流を行います。学習交流会では、全国の仲間の皆さんが学びたい内容を毎年考え学習しています。

定期的に仲間ニュースを発行しています。必要なときには、全国の仲間に対してアンケートで皆さんの声を集めます。

今までに苦労したことは、利用者部会ができた当初、各支部に連絡を取っても事情をすぐに分かっていただけなかったことです。

しかし、今では連絡(電話)をする、「元氣か」「頑張ってる」と声をかけていただけることになり、そのことがすごくうれしいです。

現在、利用者部会は全国26支部にあります。「わたしたち抜きに私た



厚生労働省との懇談をしました

ちのことを決めないで。」国連における権利条約を制定する際、交わされていた大切な言葉です。
障害を持った仲間たちが権利の主体者として、生活や暮らしを切り拓いていくことをめざして利用者部会も発足して11年が経過しました。今年度は、皆さんから集まった願いをまとめ、厚労省との懇談を初めて実現しました。
現場の声をしっかりと届けることの大切さを強く感じました。皆さんの声や応援を待っています。よろしくお願い致します。

第42次きょうとわん国会請願署名・募金について

野田川共同作業所
支援員 小巻 真希

現在、きょうとわんでは障害のある人達が「あたりまえに働きえらべる暮らしを」のスローガンのもと、5月23日に国会に提出するための署名を皆様にお願ひしております。障害のある人も障害のない人も平等な生活を実現するために、障害福祉についての制度拡充を求めるために取り組んでいます。毎年全国で100万筆以上の署名を集めており、今年は京都支部としては署名26万筆、募金1000万円を目標に頑張っているところです。

よさのうみ福祉会では職員、利用者全員で取り組んでいます。署名と募金へのご協力をよろしくお願い致します。



花音のレジではお客様に署名をお願いしています

今年の請願項目

- ①中央省庁による障害者雇用の水増し問題の究明と、働くために必要な支援制度の確立
- ②障害年金の引き上げと、暮らしを支える制度(グループホームやヘルパー制度など)の拡充
- ③障害のある人が65歳を超えても必要とする制度を選んで使えるよう、介護保険優先原則の廃止
- ④地域活動支援センターの安定した運営のための制度拡充
- ⑤職員の労働条件を引き上げるための報酬制度の抜本的改善

教育研修委員会報告

法人内交換実習

紀元前369年頃、今から2300年以上前の中国戦国時代に生まれた「莊子」は、「井の中の蛙大海を知らず」の故事成語で有名な思想家です。このことわざは、『小さな井戸の中にいる蛙は、大きな海などの井戸の外にある世界のことを知らない』と言う意味から、自分の狭い知識にとらわれてしまい、物事の大局的な判断ができないこと」の例えによく使われています。

さて、私たち「よさのうみ福祉会」は丹後福祉圏域に22カ所の事業所を運営し、300名近くの職員が障害のある方の支援に従事しています。各事業所には10名前後の職員が配置されて支援にあたっていますが、とかく狭い社会になりがちのところは否めません。「井の中の蛙」にならぬよう、定期的な人事異動や委員会活動、福利厚生部会の活動を通して情報共有や交流を図っているところです。

今回企画された交換実習も、①他事業所の実践、支援や業務内容にふれ見聞を広める、②普段の職場を離れることで改めて自分の職場や支援に気付きを得る、③法人職員間の交流を深める、④「第三者」の目で事業所を見てもらう事を目的に企

委員長 杉本 正和

画されました。具体的には、1月22日(火)一日を使い、各事業所より1名を選出し他の事業所へ派遣し、同時に1名を受け入れるという企画です。全事業所を対象にした初めての企画でしたが、参加職員は多くの学びや気付きを得たようです。



実習で厨房作業に取り組みました

◎参加職員の感想

- ・色々な支援方法があることに気がつきました。
- ・同じところにいると視野が狭くなっていることに気がつきました。視野が広くなると色々なアイデアが出てくると思います。
- ・自分がやっている仕事が一番大変なように思いがちだが、他の事業所の仕事を体験してみても、それぞれに苦労や悩みがあることを実感できた。
- ・短時間でしたがとても新鮮な気持ちになり、正直楽しかったです。

法人管理者研修

「職員の能力開発を進め、組織を強くするマネジメント」次世代へのバトンタッチのための人材育成を念頭にして」



丹羽 勝氏 3月12日に開催した管理者研修は、(株)エイデル研究所より丹羽勝氏を講師に招き、事業

経営の両輪である法人理念と具体的な戦略をベースにしておこなわれました。さらに、チームマネジメント、リーダーシップ、職場風土の醸成といった言葉の持つ概念を再確認し、法人内でどのように次世代を育成し、スムーズなバトンタッチに結び付けるかがテーマとなりました。この研修は2回シリーズで構成され、4月23日の開催をもって完結しました。



管理者研修

着物バザー開催

みやづ作業所 支援員 西原 美恵

3月21日(祝)に宮津市民体育館剣道場で、着物バザーを行いました。宮津・伊根地域の作業所を支える会主催のバザーは十数年ぶり。経験のある職員も少なく、手探りで準備を始めました。

まずは肝心の着物集めからと広報やチラシに掲載すると、たくさんの方からご連絡いただきました。利用者と一緒に回収に行くと「着物はもう着ることないし、少しでもお役に立てたら」と快く提供してくださりました。地域の方からは、「バザー久しぶりやね。見に行くわ」と楽しみにされる声も聞きました。

当日は、風の強い日でしたが170名を超える来場客で剣道場はいっぱい。お陰様で予想を遥かに超える売り上げとなりました。この収益はいよいよこの5月から開設された新ホームの建設資金となります。障害のある人が住み慣れた宮津で安心して暮らしたいという夢の実現に貢献できればと思います。

最後に、着物の提供やご来場いただいた皆様、バザー準備にご協力いただいた関係者の皆様、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。





夢織りの郷

満開の桜のもと
8名の新たな仲間が増えました!!



4月5日に与謝野エリア合同入所式をおこないました。野田川共同作業所へ2名、リフレかやの里へ2名、ワークセ

ンター花音へ3名、いきいきへ1名の8名もの新たな仲間を迎え、また昨年度途中には、野

田川共同作業所、ワークセンター花音へそれぞれ1名の入所者を迎えることができたことをみんなに紹介しました。

入所式当日には、与謝野町副町長をはじめ、多くの来賓にご出席いただき、ご本人、保護者、関係者一同で祝うことができました。支援学校の塩田先生より在学中の様子や新社会人へのメッセージ、野田川共同作業所自治会長幾世さんより歓迎の言葉が贈られました。新入所者は少し緊張した面持ちで一人ひとり、「仕事を頑張ります」「先輩達と仲良く頑張りたい」などの思いをみんなの前で発表しました。

柴山裕貴(しばやまゆうき)さん

野田川共同作業所

ろむの「きらり」を卒業して野田川共同作業所へ来ました。商品組立作業をがんばっています。働いたお金で、家族旅行するのが夢です。

斉藤美紀(さいとうみき)さん

野田川共同作業所

おじいちゃん、お母さんと一緒に暮らしています。家族のために一般就労をめざしてがんばります。

中西竜太郎(なかにしりゅうたろう)さん

ワークセンター花音

花音でいずればホールに出てお客さんの注文取りができるように、花音で長く続けられるように頑張ります。

山本瀬奈(やまもとせな)さん

ワークセンター花音

お給料を貯めてトランペットを買いたいです。

小牧祥(こまきしょう)さん

ワークセンター花音

花音でたくさん働いて免許と車を買えるようにがんばると仕事の内容を覚えれるようにがんばります。



みねやま作業所

間芝淳奈さん、入所
おめでとうございます！

4月から新しい仲間を迎えて、作業所の仲間、職員みんなで歓迎しています。これまでに上にみねやま作業所が明るくなったように思います。夏の実習に來られ、みねやま作業所を気に入ってもらえ、今回利用が始まりました。

まだ18歳という若さで、これからの可能性は無限大です。仕事を頑張るのはもちろん、学習活動、自治活動、余暇の取り組みなど年間を通じてたくさんの行事があります。その中で、間芝淳奈さんの力をいっぱい発揮して、更に力をつけてたくましい人になって下さい。

作業所での生活が楽しくなるよう応援をしたいと思っています。

間芝淳奈(ましばじゆな)さん

みねやま作業所に來れてうれしいです。資源回収をがんばります。





障害児(者)多機能型
支援センター

ろむ

ドキドキ・わくわく！豊かに 学び、働こう

今年度、学びの場「きらり」には支援学校を卒業された3名、生活介護事業にはきらりを終了された1名、合計4名の新規利用者の方を迎えました。

この進路を決めるために、たくさん考え話し合っただけでそれぞれの場所を選んだ皆さん、入所おめでとうございます。新しい環境に慣れたら、「こんなことがしてみたい!!」「あそこに行ってみよう!!」そんな気持ちをみんなの中で話して欲しいです。「ろむを選んでよかったな。おもしろい」と感じられるよう、一緒に過ごしていきたいと思います。

山田和希(やまだかずき)さん

てくてく班でダンボール回収とあき缶の仕事をがんばります。給料でたこやきやオムライスを食べにいきます。

谷口奈央(たにぐちなお)さん

美術やパソコンや調理をがんばります。困った時は言えるようになります。みんなと楽しくすごしたいです。

芦田桂那(あしだけいな)さん

勉強やパソコンをがんばって、お父さんみたいになりたいです。そして、お父さんの現場と一緒に働きたいです。

上田康太(うえだこうた)さん

きらりにいけてうれしいです。はまなか先生の授業がたのしみです。できることをたくさんみつきたいです。

「親」のききこみ

夢織りの郷いきいき利用者家族

小谷 正一郎

「親」もあつむ

「人権を大切にするということは、ああいうことだと言ってもらえる施設を、「障害があっても労働が保障される施設」を、「親亡きあとも安心できる施設」を等々、丹後全域の仲間の皆さん、多数の親たち、作業所職員の皆さん、養護学校の先生方等の数々の願いをもとに夢織りの郷は建設されました。そして、この願いは、その後も施設運営の理念として受け継がれています。

私の娘は重度の自閉症ですが、夢にまで見たこの施設「いきいき」に入所を許されたのは幸せでした。

以来二十余年お世話になっていきます。自閉症の特徴である「社会性の欠除」、「強いこだわり」、「コミュニケーションの困難」等が典型的にあらわれて、発達を阻害し、五十歳に近い歳になっても、ある意味ではまるで三歳児のような状態です。「痛い・苦しい・悲しい」などの訴えが言葉で表現できなくて耐えているのを見るのは辛いことです。

施設ではこれらのことをよく理解されて、手を尽くしていただいています。深く感謝するとともに、親が高齢化して「親亡きあと云々」の言葉が現実味をおびてきた今日、今後のことを心からお願ひしたいと思っています。

「世界でひとつだけの花」を、せめてせいっぱい咲かせてやりたい!

親の祈りです。

2018年度 夢織りの郷を支える会 野田川地域資源回収

夢織りの郷 いきいき

支援員 霜尾 充範



資源回収

3月9日(土) 夢織りの郷を支える会が野田川地域資源回収を行いました。資源回収ではダンボール、新聞、雑誌、アルミ缶、衣類を回収しています。野田川地域の資源回収は毎年3回行ないますが行事などの関係で、今年は

2回の実施となりました。

今回の資源回収では職員、利用者、保護者のボランティア約40名の参加がありました。地域の皆さまからのたくさんの方々の資源や、地域によっては道幅が狭いため軽トラを快く提供してくださる方などの協力のもと支える会の資金を作ることができました。

昨年の秋の資源回収では高校生の方にボランティアとしてご協力いただきました。ですが年々、資源回収に協力していただく方が減ってきているのが現状です。

続いて2週間後の3月23日には加悦地域の資源回収を終え2018年度の支える会の資源回収事業を完了しました。



資源回収

仲間を支えられて

ハローワークの求人募集の書類に目を通しながら、「何となく楽しそうだから…」と応募した。本来に安易な考えで始まった私の障害者福祉業界での日常。夢織りの郷に採用され、「ひまわり」という班に配属となった。間近で仲間に初めて接した。最初は緊張して言葉が出なかった。

リレー随想



夢織りの郷 つむぎ
主 任 寺内 大輔

今でも仲間の笑顔があふれる夢織りの郷で、毎日楽しく仕事をしている。仲間を支える側の職員だが、仲間には本当にいつも支えられている。仲間に本当に感謝をしている。いつか仲間に恩返しをしたい。仲間の願いを叶えたい。そんな事を最近、特に強く感じるようになった。

「次世代へのバトンタッチ」というフレーズを聞いた。僕の所にもバトンが回ってくるのかな。仲間の願いがたくさんつまったバトンだな。先輩職員の思いがた

くさんつまったバトンだな。大事なバトンだな。落としたら大変だな。今からしっかりと準備運動しておこう。

今回は

みやづ作業所

看護師 大同 妙美です。

ていた。福祉の「ふ」の字も知らない若造をみんな受け入れてくれた。そんな心地よい雰囲気の中、次第に緊張も解け仲間に話しかけられるようになった。仲間の視線を感じ取れるようになった。仲間の声も感じ取れるようになった。仲間の願いに気づけるようになった。いつしかひまわり班に行くのが楽しくて仕方なくなった。

ご寄付御礼

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございます。

2019年2月4日〜2019年3月26日

(順不同・敬称略)

川上晃輝	寺内大輔
山本優子	小牧扶紗子
上田常男	樋口智津子
荻野真作	池田和裕
古川俊光	尾上真由美
佐々木 茂	奥田茂樹
三宅由希也	日下部みはる
白須啓子	松村 繁
市川迪彦	星 幸敏
柴山 守	坂根 均
岡田 茂	今田和枝
山本 優	乙野明美
徳田富美子	千原由美子
片岡正志	佐々木清高
羽田文代	山崎衣里香
小田栄子	石塚寿幸
西垣三衛子	大野千鶴
小西美千代	野村和弘
松本敏子	

医療法人社団山吹会 理事長 井上晋吾

称名寺 仏教婦人会

日本キリスト教団 丹後宮津協会

一念寺 仏教婦人会

親切会 関西支部

宮津作業所家族会 会長 大山さち子

峰山共同作業所・みねやま作業所・

ゆうゆう作業所・るむを支える会

会長 堀江正己

夢織りの郷保護者会 代表 西原俊朗

宮津・伊根地域の作業所を支える会

会長 吉田悦男

その他匿名でもたくさんのご寄付をいただいております。

編集後記

映画「グリーンブック」を観ました。1962年。天才黒人ピアノニストは、粗野なイタリア系白人を運転手兼用心棒として雇い、「黒人専用ホテルガイドブック(グリーンブック)」を頼りに、あえて差別の色濃い南部へコンサート・ツアーに出かけます。

旅の途中のいろいろな出来事によりお互いの理解が深まり、旅の終わりにには友情を育み生涯の友となります。

実話をもとにして、アカデミー賞を5部門も受賞した感動作でした。でも、見終わって「よかったー、いい映画だった」と思うのと同時に、57年も前の話なんだな、その間に人類は進歩したのかなとも思います。今も人種差別はもとより、障害者差別も女性差別もあいかわらず続いています。

アメリカでも日本でも、たぶん世界中であるでしょう。人間はどうしても自分を優位に立たせたくて差別される側を作り出すのでしょうか。社会的差別とともに内なる差別意識も重い課題です。コウノトリに赤ちゃんがうまれたというニュースを見ながら社会の進歩を願います。(山)